公民館だより 1
東丘公民分館報
S49.9.10
広報

公民館とは

公民館といえば、一般に集会場とか映画会を行なう場所とか中には、結婚式場だと思っている人もあるようです。このような印象を与えていることは、公民館がまだ住民の生活の中で正しく理解されず、生活上必要であるという切実感がともなっていないということをあらわしているのでしょうか。

公民館は、講座を開いたりグループ活動やレクリエーション活動を行なったりして住民の実際生活に即した教育文化活動を行ない それを住民の生活に還元させるところです。

では、本来の公民館とは、

1. 公民館は、地域住民に奉仕する、生活のための学習や文化活動の場である。
2. 公民館は、地域住民の日常生活に結びついて、常に利用され、他の専門施設や機会等と住民との結び目をはたす場である。
3. 公民館は地域住民の日常生活から生ずる問題の解決を助ける場である。
4. 公民館は仲間づくりの場である。

以上、簡単に公民館について書いてみました。

豊かな人間性と広い社会性、また明るい家庭と美しい町の実現をめざしこの東丘公民分館も活動しております。地区の方々の御理解とご協力で盛り上がったものになることを願ってやみません。

昭和四十九年度 東丘公民分館 役員・紹介

分館長	浜田泰孝 (B12)
副分館長	藤本忠司 (A43)
会計	西村富士代 (C19)
会計監査	新藤美智子 (A35)
主事	早坂キイ子 (C4)

◎行事につきましては、その都度お知らせいたしますのでよろしく。

美しい町を作るもの

東丘公民分館長
浜田泰孝

この新千里東町が誕生してから満八年過ぎました。八年前の今頃は、おぼえている方も多いと思いますが、どちらを向いても土とコンクリートばかりの荒涼とした町でした。今、町内を歩いてみますと、もうどこにも当時の面影を見つけることはできません。それどころか落ち着き、しかも美しい町の姿についうっとりさせられる事さえあるのです。春は花、夏は緑、秋は紅葉につつまれて東町は「住区」と、呼ぶにふさわしい町にと、すっかり成長しています。

このようなすばらしい発展は、もちろん、次々と結成され、善意と奉仕に支えられて、住みよい町づくりのために黙々と活動を続けてきた各自治会、PTAその他の住民組織の活動の本当にすばらしい成果です。

しかし、それでは、私達の理想の町は、もうでき上がってしまったのでしょうか。いやまだまだ問題は残っている――ということを町内での心暖まるニュースと共に、時折耳にする心の重くなるようなことがらの存在が示していると、思います。

特に、たとえ、見た目には、いかにすばらしい町であったとしてもそこに住む人が利己主義のからの中にとじこもっていたのでは、その人はもちろんの事、その周囲の人にとってもその町は、何の魅力もない殺伐とした町になってしまいます。反対に、たとえ、少しは不便な事があっても友情に囲まれて、生活できる町であるなら子どもたちが将来「私の故郷」と、呼ぶにふさわしい良い町であると、思うのです。

私達の心の持ち方にかかわりある問題――これが今後の私達の町づくりの主要な問題の一つである様に思われます。

バレーボール

五月十九日(日)に公民館主催のバレーボール大会が豊中市民体育館で行われました。あいにくの雨でしたが館内は、お母さんたちの熱気でムンムン…。東丘は、第一試合は、豊島とあたり一セットニセットとも大量点にて勝ちました。第二試合は、桜井谷とでしたが結局二対一で惜しくも負けてしまいました。今は、多田照子さんをコーチに迎え毎週水曜日三時より練習に励んでいます。皆さんもお気軽においで下さいね。(バレー部)